

病院機構だより

地方独立行政法人府中市病院機構 令和4年度事業報告

全体的な状況

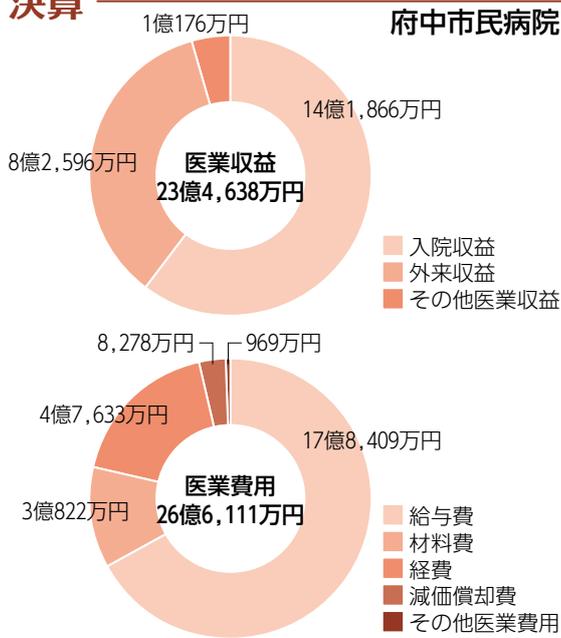
令和4年度の経営成績は、839万円の赤字決算となりました。

◎府中市市民病院

前年度比較で医業収益は5,800万円増、医業費用は2,800万円増となりました。医業収益では、入院収益が5,600万円増、外来収益が500万円増となりました。

府中市市民病院は、新型コロナウイルス禍における地域の公的医療機関としての役割を果たすため、昨年度に引き続き発熱患者の診察を受け入れ、仮設テント設置や入院患者を受け入れるための病床確保など患者の増加に対応しました。また、今後の感染症発生時にも外来診療の受入を継続するための対策として、病院敷地内に外来患者用のコソテナハウスを設置しました。

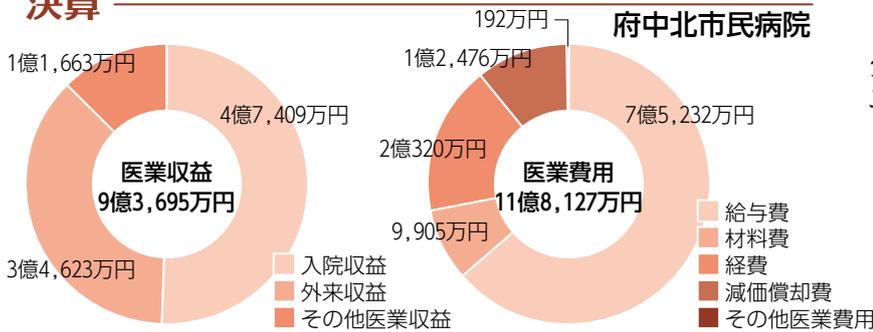
決算



主な購入機器 多用途透析用監視装置10台、電子カルテ部門システムサーバ、内視鏡光源・プロセッサ装置、超音波診断装置、薬局システム、電動ベッド20台、大腸ビデオスコープ

購入経費 1億5,681万円

決算



主な購入機器 上部消化管ビデオスコープ、内視鏡システム、電話交換機

購入経費 3,174万円

空調設備改修工事 2,442万円

※万円単位の表示のため、合計と科目の金額が一部合致しない部分があります。

◎府中市市民病院

前年度比較で医業収益は3,000万円減、医業費用は900万円増となりました。医業収益では、入院収益が3,800万円減、外来収益が700万円増でしたが、訪問看護や訪問介護の収益増もありました。

府中市市民病院は、外来診療や入院から在宅まで切れ目のない支援のできる上下地域で唯一の医療機関として、今後も地域住民を支えます。

令和4年度事業報告への市の評価

▽新型コロナウイルス感染症への対応として、発熱症状のある患者への外来診療や必要に応じた検査の実施、一部病床を改修した専用病床への受け入れによる入院治療など、両病院とも公立病院としての役割を積極的に果たしているとともに、ワクチン接種への積極的な協力について評価する。

▽黒字化を達成できなかったことは残念であったが、クラスター発生時の患者受入制限や、原材料費や電気料金的大幅な値上げなどの影響を鑑み、病院機構の最大限の経営努力については評価すべき。

▽府中市市民病院では、常勤医師（泌尿器科）が新たに1人着任し、外来診療が強化された。府中市市民病院では、内科診療体制が維持されており、また、眼科外来診療が継続されているなど、両病院とも必要な外来診療体制の維持に努めている。

▽課題としては、訓練や備蓄といった災害対策、市民への積極的な情報発信、健全な財政運営の継続などが挙げられる。

問い合わせ先

(地独) 府中市病院機構事務局
(☎45-3300)